

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	年計画に組み込み、1項目ずつ確実に実践していく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	地域の方々に対しては、運営推進会議の中で、地域で暮らし続ける大切さを伝えていく努力をしていくとともに、運営推進会議の報告等にご家族にも、閲覧していただけるように、声かけや配慮を行っていく。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	近くの保育園の発表会やもちつきなど民生委員の方から連絡をいただいたが、今年度は天候などの都合で参加できなかったため、来年度はもっと交流ができるようにしていきたい。また、自治会の夏祭り等へも参加していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	いまだ、当ホームの日常業務に精一杯の状況であり、実施するに至っていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	二回目の外部評価であったが、意義を理解し、評価する中で職員の着眼点に変化が見られつつある。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・民生委員・包括支援センター及びご家族の代表の方の参加をいただき、頂いた情報や意見は、即サービス向上に生かすようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者の支援を得て、昨年4月より自治会に加入している。	○	今後も疑問点・困ったことなどは市担当者と相談しながら、解決を図ってサービスの質の向上に努めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在のところ必要な方はいないが、研修会等出席して、理解を深めるようにしている		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内での虐待などは起きないように細心の注意を払っている。	○	虐待とは何かを折に触れ話し合い、虐待防止に努めていく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	○	日々の暮らしぶりが、率直に伝わるように個々の情報交換ノートを活用を今以上に図っていきたい。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	なかなか意見を頂けないが、この調査の家族へのアンケートにおいて、率直な意見が聞けるので楽しみである。また、家族会の充実を図り、いろいろな意見をいただけるようにしていきたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会の研修や21年度介護研修など、段階に応じて外部研修をうけてもらっている。また、研修を受けた者の伝達講習や、機会あるごとに対応法など具体的に意見を聞いたり、指導したりしている。	○ 来年度も可能な限り全スタッフが必ず一つは外部研修の受講ができるように、また内部研修等も含め年間計画を立てていく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会における研修やそのグループワーク等で他事業所の方々と交流の機会があり、活動状況などの意見交換ができた。そこからヒントを得て、自分たちの中に想像できなかった、入所者の方々の運動会を開催することができた。	○ 他事業所の方々と顔見知りになる機会ができ、他のグループホームの入居者の方々との交流等もすすめている段階である。今年度は実現できるように計画を立てていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は職員と一緒に働きながら、職員とよく話し、また職員の変化についてよく観察するように努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日頃の努力や実績、勤務状況については、よく把握するように努めている。また、介護職員待遇改善交付金を利用し、改善を図っている。	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人、ご家族から詳しくお話を聞いた上で、受け持ちの介護スタッフを中心ににして、行動や言動、不安げな表情等を配慮しながら、それを受け止める努力をし、関係作りに努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に可能な限り、ご家族・ご本人に見学に来ていただき、その時に話をゆっくり聞ける時間を設け、受け止める努力をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	時間の許す限り、ゆっくり話を聞いて、必要としている支援を見極められるように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自然な形で、徐々に馴染めるようご家族や他スタッフと相談しながら、時間をかけ、ゆっくり雰囲気づくりの工夫を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に尊重する態度で接し、寄り添い、笑いのある関係が気づけるように努めている。	○	今後もさらに深く信頼関係が築けるように、自己学習と職員間の連携を図っていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	誕生会、納涼祭など行事等への参加のお誘いをしていが、家族の参加率がすごく高い。またうれしい変化や出来事などは、来所時や個々のノートに記入し、共有できるように努めている。	○	ご家族の来所時など、どのスタッフへも気軽に話しかけていただけるような雰囲気作りに努めていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の思い、ご本人の思いなど、できる限りお伝えするようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達の面会などの問い合わせを受けた時など、気兼ねなく来所できるよう、対応に心がけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様一人一人、平等に接するよう、勤務開始時はまず全員に声をかけるように心がけている。また一人が孤立しそうときは、さりげなくその場を離れるように援助したり、声かけを行うなどしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても、遠慮なく連絡して下さるよう、相談等にも応じることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	受け持ちの介護スタッフと協力し、ご家族の要望等を聴きながら、本人本位の意向の把握ができるように努めている。	○	そのひとりさや思いや意向が導き出せるようなアセスメント方式を現在模索中である。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し、入所時、ご家族にシートの記入(私の家族、生活史、暮らし方、生活環境等)を依頼し、これまでの暮らしの把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	受け持ちスタッフからの情報、日々の介護記録及び他スタッフからの情報も取り入れながら、現状の把握に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族からは、機会あるごとに要望等を聞いて、受け持ちスタッフと相談しながら、介護計画の作成を行っているが、ご本人からの要望をつかみきれないで模索している利用者の方もいる。	○	センター方式を全利用者に取り入れることは困難なところもある。一人ひとりの思いや意向を大切にしていきたいが、どうすれば導きだせるか模索している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	紙面上の作成は遅れがちになるが、現状に即した対応、計画の変更にも努めている	○	受け持ちスタッフの月1回のモニタリング、計画作成担当者の3ヶ月ごとの評価の実施および必要時は、話し合いの機会を持てるようにしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき、工夫などはできるだけ記録に残すようにし、情報が共有できるようにしているが、介護計画に沿った記録が不十分で現在模索中である。	○	介護計画が、受け持ちだけでなく他のスタッフへも浸透し、介護記録に介護計画に沿ったの記録ができるように、介護記録の書き方の検討及び勉強会を計画していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	月1回の定期受診など、ご家族付き添いが困難であったり、ご本人が通院困難になってきた場合は、ご家族と相談の上、往診に切り替えるなどの対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	よく来所してくださるボランティアの方の同行で、近くの中学校の文化祭に、1名の利用者様がいかれた。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在まで、特に行っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議への出席をしていただいている。そのほか入居者様の紹介等していただいているが、権利擁護や長期的なケアマネジメント等については、現在のところ協働して行っているところはない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医継続希望の方は、そのまま継続していただき、受診の際は必要に応じ、状態情報書作成し、持参してもらっている。また状態変化の時は連絡・相談も行うようにしており、受診後は主治医より情報提供書をいただくこともある。	○	今後も情報の提供を行い、よりよい連携を深めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	各々のかかりつけ医があり、必要に応じて、専門医紹介したり、入院したりしている。	○	必要があれば、主治医と相談の上、専門医の診断、治療が受けられるよう継続していく。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職は常勤2名おり、日常の健康管理や医療的な支援を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院に際しては、即情報交換を行っており、病院関係者ともいい関係が保っている。	○	今後も、利用者・ご家族にとってより良い方向に向かうように努めていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化し入院した利用者様もあり、入院されてからご家族と話し合いをした。	○	早急に、各利用者様が重度化した場合の方針について、話し合っていきたいと考えている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化し入院加療後、当事業所で介護できるのか、できないことは何なのか見極めはしたが、今後の変化に備えての準備が不十分である。	○	チームで支援していくために、今後十分な検討と準備を進めていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでの状況等の情報交換をケア関係者間で行い、住み替えによるダメージが最少で済むように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々、一人一人に対し、尊重した言葉かけや対応の仕方に心がけ、プライバシーが損なわれないように十分配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	行事や外出計画の参加などもできるだけ押し付けにならないように、ご本人の意見を尊重しながら、計画を進めるようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、ご本人のペースに合わせて対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの美容室のある方は、ご家族に同行依頼している。訪問カットの時は、本人の希望に沿うようお願いしている。白髪染めを希望される利用者様に対して、定期的にスタッフがやっている。また外出の際は、ご家族や本人の希望の洋服を選んで着用している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の箸配り、テーブル拭き、下膳など出来る事を手伝ってもらっている。食事時は、BGMをかけ、ゆったりと楽しんで食べられるように配慮している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	時々、食べたい物のリクエストを取って、食事の提供を行っている。喫煙をされる方は1名おられ、各食後に1本ずつ吸われる。それを毎日楽しみに待たれている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し、間隔を見てトイレ誘導やパット交換など行っている。言葉ではトイレと言われないが、行動が落ち着かなくなる時などトイレのサインのこともあるので、それを見逃さないように、日頃の行動や表情の把握に努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週はじめに1週間の入浴予定は計画するが、その日の状況、本人の希望により変更している。	○	入浴促しても、嫌がられる場合があるので、どうすれば入浴を楽しむことができるか、検討していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	朝の目覚めの悪い方は、朝食をずらしてゆっくり休んでいただいたり、好きな時間にベッドで休んだり、ソファに座ってテレビを見たり自由に過ごしていただいている。そのほか、疲れ具合を見てベッドで休んでいただくなど、声掛けや介助を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	週1回ボランティアの方との歌の練習が定着してきており、楽しみの一つになっている。役割としては、利用者様が限られているが、食事時の箸配り、テーブル拭き、洗濯物干しや洗濯物たたみなど手伝っていただいている。時々気晴らしに買い物などの外出も行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことの大切さを十分理解しており、預かり金として事務所で管理している。本人が所持している方場合は、トラブルが起らないよう気を付けて、さりげなく管理している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりその日の希望に沿って、外出できる支援は、まだ不十分である。おひとり、自分の買い物や施設の買い出しの手伝いなどで、散歩やミニドライブなど行っている。そのほかは、ご家族に協力をいただいている。	○	ほかの利用者様も個々の状況に応じて散歩や買い物、ミニドライブなど計画していく
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お墓参りなどの希望があるときは、ご家族へお願いしている。その他の外出支援はほとんどできていない。	○	一部を除いてどこへ行きたいなど口に出されませんが、日々の会話の中から、要望がでてくれば、実現可能ならば、計画をたてていく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある時は、施設の電話を利用して、自分でかけてもらったり、取り次いだりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員の笑顔での対応に心がけ、居心地良く過ごせるような雰囲気づくりに努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全スタッフは、身体拘束とはどういうことを言うのか、理解できている。できる限り、身体拘束はしないという気持ちを持ってケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける事の弊害については、職員も理解しており、日中は出来る限り、施錠しないようにしているが、外へ出ようと落ち着かれない利用者の方がいて、職員の対応が困難な時に一時的に施錠することはある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に安全確認には細心の注意を払っている。職員間で声を掛け合いながら取り組んでいる。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	特別危険な物は置かないようにしている。現在のところ、神経質に物品をなくす必要のある人はいない。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	これらの事故防止に対して、日頃から真剣に取り組んでいる。1人1人の状態については、職員間の情報交換を密にし、又機会あるごとに知識を深めつつ事故防止に努めている。	○	しかし、全職員の知識、技術が十分とは言えないので、深めていく、勉強会を開催して行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	夜間の転倒や発熱などの状況の把握、利用者様の状態観察及び報告はできているが、応急手当などの訓練は行っていない。	○	全職員が知識・技術の習得ができるように、来年度の消防や日赤の救急法などの講習会を年次計画に組み込む。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	まだ、地域の人々の協力を得られるところまではいっていないが、運営推進会議を通して、利用者の状況、防災訓練時の内容など報告している。	○	早急に地区の消防団と連絡を取り、協力体制作りを行っていく
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	1人1人に起こり得るリスクについて家族の説明はまだ不十分である。現在の生活の上で起り得るリスクについては、説明しており対応策については話しているが、十分とはいえない。	○	今後、一人一人の利用者の家族と起り得るリスクについて共通理解に努め、対応等を十分に話し合っていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員間で利用者の体調変化、異変の発見できるよう、各勤務交代の際申し送りをしている。また気付いたことは、すぐ情報を共有し対応策も話し合っている。	○	職員の知識をもっと深めていく必要がある。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の目的、用法についてはだいたい理解できているが、副作用や用量については不十分なところがある。飲み忘れ、誤薬等がないように、配薬時は細心の注意を払い、確薬に努めている。また薬の変更があった時は、用法、用量について間違いがないように、周知徹底している。	○	状態の変化に応じて、薬の渡し方、服用の仕方など工夫していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い、排便間隔を見ながら、腹部の状態を確認し、腹部マッサージや水分摂取など行っている。必要に応じ、主治医と便秘薬の検討を相談している。また、からだを少しでも動かすように、毎日おやつの前にリハビリ体操を行い、ときどきはレクリエーションなども取り入れている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨きの声かけや歯ブラシを持ってもらうところまで誘導したり、義歯洗浄の介助、ブラッシングのみまもり、介助等個々に応じて行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の総カロリーを1400Kcal(3食とおやつ)と決めてご飯量も計測している。水分量は1000mlを目安として、摂取量の少ない利用者の方に対しては、個人の趣向に合わせた飲み物の用意や水分ゼリーなどを作っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	勤務出勤時、各処置時、石鹸と流水での手洗いを徹底しており、ご家族面会時にも協力を依頼している。感冒症状のある時は、マスクの使用など自己管理のもとで行う。ノロウイルス発生の通知などは、全職員に周知し、トイレ、手すり、各部屋、椅子などの拭き掃除の方法など取り決めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の調達は、週3回新鮮な物を購入している。また保存に関しては用法を守り、食中毒を起こさないように気を付けている。調理器具等の衛生管理に努めている。ふきん、スポンジ、まな板などは毎日熱湯消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	だれでも安心して出入りができる玄関になっているが、デイサービスを併設しているので、初めての方などは、玄関が分かりにくいところもある。	○	グループホームの玄関がわかるような工夫をしていく
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食卓に四季折々の花を飾っている。またフロアはBGMとして童謡、ジャズなど流している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブル、座敷冬はこの上にコタツを用意、またテレビの前にソファを用意しており、利用者の方は、思い思いの場所で過ごしている。玄関横のベンチに腰をおろし、外の景色を楽しんでいる人もいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や使い慣れた鏡台等を持ってこられている方もある。タンスや椅子などご家族と相談しながら、過ごしやすいように配置している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、掃除のときにフロア、居室の窓を開けて十分換気を行っている。1日3回時間を決めて、フロアの室温と湿度を管理日誌に記入し、こまめに温度調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路になるところには、椅子など障害物を置かないようにしている。トイレ、フロア周囲の手すりの利用や、車椅子使用の方は見守りがない時でも、一人で安全に移乗出来るように、ベットの車椅子の設置の仕方など工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレに行きたくてもトイレが理解できない時など、別の言葉でトイレを表現したり、方言を使う、実際に途中まで動作を手伝う、身ぶり手ぶりなどジェスチャーをすることで、混乱や失敗を防いでいる。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関横や菜園の前にベンチを置いている。ときどきはそこに座って庭の花や大きく育った野菜を眺められている。	○	菜園の野菜作りは主にデイサービスの利用者の方と職員が行っている。その一角でも使って土いじりなど行ってきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 笑顔の挨拶・言葉かけ
- 安全面に配慮しながら、その人のペースに合わせて、ゆったりとかかわること
- 毎日笑いが絶えないこと